

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	2026年9月4日まで（2016年11月16日設定）	
運用方針	新興国通貨建て世界銀行債券マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界銀行が発行する新興国通貨建て債券に投資を行います。 マザーファンド受益証券の組入比率は高位を維持することを基本とします。 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。 マザーファンドにおいて、債券等の運用にあたっては、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・インクに運用指図に関する権限を委託します。	
主要運用対象	ベビーファンド	新興国通貨建て世界銀行債券マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	マザーファンド	世界銀行が発行する新興国通貨建て債券を主要投資対象とします。
主な組入制限	ベビーファンド	外貨建資産への実質投資割合に制限を設けません。
	マザーファンド	外貨建資産への投資割合に制限を設けません。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。	

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。  
 ※公募株式投資信託は税法上、「NISA（少額投資非課税制度）およびジュニアNISA（未成年者少額投資非課税制度）」の適用対象です。  
 詳しくは販売会社にお問い合わせください。

## 運用報告書（全体版）

# 新興国通貨建て 世界銀行債券オープン

第4期（決算日：2017年12月6日）

第5期（決算日：2018年3月6日）

## 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、お手持ちの「新興国通貨建て世界銀行債券オープン」は、去る3月6日に第5期の決算を行いましたので、法令に基づいて第4期～第5期の運用状況をまとめてご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。



## 三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号  
 ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客様専用  
フリーダイヤル **0120-151034**  
 （受付時間：営業日の9:00～17:00、  
土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く）

お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

### 本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

### ○設定以来の運用実績

決算期	基準 (分配落)	標準価額			債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	純 資 産 総 額
		税 分	込 配	み 金 騰 落 中 率			
(設定日)	円		円		%	%	百万円
2016年11月16日	10,000		—		—	—	7,558
1期(2017年3月6日)	11,114		150		12.6	91.0	8,698
2期(2017年6月6日)	10,918		150		△ 0.4	93.4	7,614
3期(2017年9月6日)	10,858		150		0.8	92.2	4,636
4期(2017年12月6日)	10,821		150		1.0	84.5	3,689
5期(2018年3月6日)	10,324		150		△ 3.2	87.0	2,842

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

## ○当作成期中の基準価額と市況等の推移

決 算 期	年 月 日	基 準 価 額		債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	券 率
		騰 落 率	騰 落 率			
第 4 期	(期 首) 2017年9月6日	円 10,858	% —	% 92.2	% —	% —
	9月末	11,084	2.1	93.8	—	—
	10月末	10,903	0.4	89.2	—	—
	11月末	10,916	0.5	91.4	—	—
	(期 末) 2017年12月6日	10,971	1.0	84.5	—	—
第 5 期	(期 首) 2017年12月6日	10,821	—	84.5	—	—
	12月末	10,839	0.2	93.9	—	—
	2018年1月末	10,761	△0.6	87.5	—	—
	2月末	10,576	△2.3	84.6	—	—
	(期 末) 2018年3月6日	10,474	△3.2	87.0	—	—

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

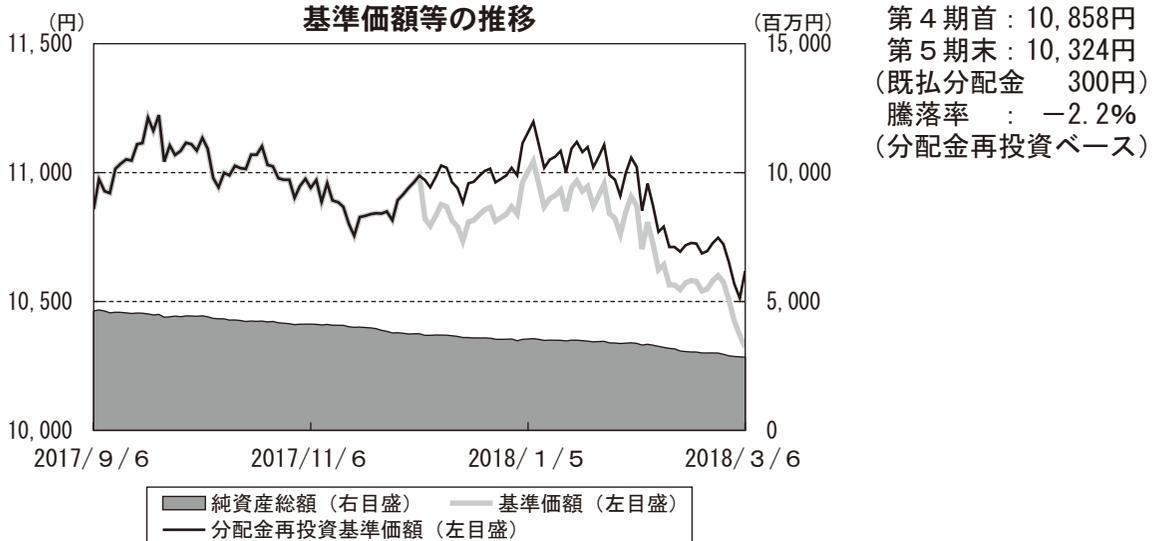
(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

## 運用経過

当作成期中の基準価額等の推移について (第4期～第5期：2017/9/7～2018/3/6)

基準価額の動き

基準価額は当作成期首に比べ2.2% (分配金再投資ベース) の下落となりました。



- ・分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。



実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

## 基準価額の主な変動要因

上昇要因	保有しているロシアルーブル建て債券が上昇したことや、南アフリカランドが対円で上昇したこと、債券の利子収入を獲得したことなどが、基準価額の上昇要因となりました。
下落要因	保有しているトルコリラ建て債券が下落したことや、メキシコペソやトルコリラが対円で下落したことなどが、基準価額の下落要因となりました。

## 投資環境について

(第4期～第5期：2017/9/7～2018/3/6)

## ◎債券市況

- ・当作成期においては、新興国債券市況を主要新興国の2年債金利で見ると、ロシアなどで金利が低下した一方、トルコなどで金利が上昇しました。
- ・ロシアでは、消費者物価指数の上昇率が低下基調で推移したことや中央銀行が政策金利の引き下げを実施したこと、原油価格が堅調に推移したことなどが影響し、金利は低下しました。
- ・一方トルコでは、エルドアン大統領による中央銀行に対する政治的圧力を背景に、金融政策に対する不透明感が高まったことや、インフレ懸念が高まったことなどが影響し、金利は上昇しました。

## ◎為替市況

- ・当作成期においては、新興国通貨は対円でまちまちな結果となりました。
- ・トルコリラは、2017年10月に米国とトルコがビザの発給業務を相互に一時的に停止したことや、トルコとクルド人勢力の対立などを背景とした地政学的リスクに対する懸念が高まったことなどが影響し、対円で下落しました。
- ・一方南アフリカランドは、12月に実施された与党の党首選挙でラマポーザ副大統領が勝利したことなどが影響し、対円で上昇しました。

## 当該投資信託のポートフォリオについて

**i** 期間中にどのような運用をしたかを確認できます。

## 〈新興国通貨建て世界銀行債券オープン〉

- ・新興国通貨建て世界銀行債券マザーファンドへの投資を通じて、世界銀行が発行する新興国通貨建て債券を高位に組み入れる運用を行いました。

## 〈新興国通貨建て世界銀行債券マザーファンド〉

基準価額は当作成期首に比べ1.6%の下落となりました。

- ・世界銀行が発行する新興国通貨建て債券を高位に組み入れる運用を行いました。
- ・通貨配分や銘柄選択にあたっては、利回り水準を重視しつつ、各国経済のファンダメンタルズ、通貨のバリュエーションなどを総合的に勘案して行いました。
- ・当作成期は利回り水準が高く、バリュエーション面で魅力があると考えられるメキシコペソ建て債券やインドルピー建て債券の組入比率を高めとしました。
- ・前記の運用を行った結果、保有しているロシアルーブル建て債券が上昇したことや、南アフリカランドが対円で上昇したこと、債券の利子収入を獲得したことなどがプラスに寄与したものの、保有しているトルコリラ建て債券が下落したことや、メキシコペソやトルコリラが対円で下落したことなどがマイナスに影響し、基準価額は下落しました。

## (ご参考)

## 利回り・デュレーション（平均回収期間や金利感応度）・平均残存期間

作成期首（2017年9月6日）

作成期末（2018年3月6日）

最終利回り	6.7%	最終利回り	6.6%
直接利回り	6.7%	直接利回り	6.1%
デュレーション	1.0年	デュレーション	0.9年
平均残存年数	1.1年	平均残存年数	1.0年

- ・数値は債券現物部分で計算しております。
- ・最終利回りとは、個別債券等について満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。
- ・直接利回りとは、個別債券等についての表面利率を加重平均したものです。
- ・利回りは、計算日時点の評価にもとづくものであり、売却や償還による差損益等を考慮した後のファンドの「期待利回り」を示すものではありません。
- ・デュレーションは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。
- ・デュレーション調整のため、債券先物を組み入れることがあります。この場合、デュレーションについては債券先物を含めて計算しています。
- ・平均残存年数は、各債券の残存年数を債券の額面で加重平均したものです。

## 当該投資信託のベンチマークとの差異について

- ・当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。
- ・従って、ベンチマークおよび参考指数との対比は表記できません。

## 分配金について

**i** 分配金の内訳および翌期繰越分配対象額（翌期に繰越す分配原資）がどの程度あるかを確認できます。

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

### 【分配原資の内訳】

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項目	第4期	第5期
	2017年9月7日～2017年12月6日	2017年12月7日～2018年3月6日
当期分配金	150	150
（対基準価額比率）	1.367%	1.432%
当期の収益	150	139
当期の収益以外	—	10
翌期繰越分配対象額	1,050	1,041

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針 (作成対象期間末での見解です。)

### <新興国通貨建て世界銀行債券オープン>

#### ◎今後の運用方針

- ・新興国通貨建て世界銀行債券マザーファンドへの投資を通じて、世界銀行が発行する新興国通貨建て債券を高位に組み入れ、利子収益の確保および値上がり益の獲得をめざす運用を行います。

### <新興国通貨建て世界銀行債券マザーファンド>

#### ◎運用環境の見通し

- ・新興国のファンダメンタルズが改善傾向にあることや相対的に高い経済成長が見込まれることなどから、新興国債券市場への資金流入が期待できると考えています。また、原油価格の上昇などを背景にインフレ懸念が高まる可能性や、主要先進国の金融政策の動向、地政学的リスクの高まりなどには注意が必要であるものの、これらが新興国債券市場に構造的な影響を与える可能性は低いと見ています。

#### ◎今後の運用方針

- ・通貨配分や銘柄選択にあたっては、利回り水準を重視しつつ、各国経済のファンダメンタルズ、通貨のバリュエーション、流動性、分散効果等を総合的に勘案して行う方針です。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2017年9月7日～2018年3月6日)

項 目	第4期～第5期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円	%	(a) 信託報酬＝作成期中の平均基準価額×信託報酬率× (作成期中の日数÷年間日数)
( 投 信 会 社 )	(42)	(0.389)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
( 販 売 会 社 )	(30)	(0.278)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
( 受 託 会 社 )	( 2 )	(0.022)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	2	0.015	(b) その他費用＝作成期中のその他費用÷作成期中の平均受益権口数
( 保 管 費 用 )	( 1 )	(0.013)	有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
( 監 査 費 用 )	( 0 )	(0.002)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
( そ の 他 )	( 0 )	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	77	0.704	
作成期中の平均基準価額は、10,846円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○ 売買及び取引の状況

(2017年9月7日～2018年3月6日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	第4期～第5期			
	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
新興国通貨建て世界銀行債券マザーファンド	千口	千円	千口	千円
	—	—	1,509,312	1,748,260

## ○利害関係人との取引状況等

(2017年9月7日～2018年3月6日)

## 利害関係人との取引状況

## ＜新興国通貨建て世界銀行債券オープン＞

該当事項はございません。

## ＜新興国通貨建て世界銀行債券マザーファンド＞

区 分	第4期～第5期					
	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
為替直物取引	百万円 893	百万円 —	% —	百万円 2,636	百万円 522	% 19.8

平均保有割合 100.0%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱東京UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行です。

## ○組入資産の明細

(2018年3月6日現在)

## 親投資信託残高

銘 柄	第3期末	第5期末	
	口 数	口 数	評 価 額
新興国通貨建て世界銀行債券マザーファンド	千口 3,975,101	千口 2,465,789	千円 2,787,821

マザーファンドの組入資産の明細につきましては、マザーファンド頁をご参照ください。

## ○投資信託財産の構成

(2018年3月6日現在)

項 目	第5期末	
	評 価 額	比 率
新興国通貨建て世界銀行債券マザーファンド	千円 2,787,821	% 96.2
コール・ローン等、その他	109,209	3.8
投資信託財産総額	2,897,030	100.0

(注) 新興国通貨建て世界銀行債券マザーファンドにおいて、作成期末における外貨建純資産(2,765,217千円)の投資信託財産総額(2,787,809千円)に対する比率は99.2%です。

(注) 外貨建資産は、作成期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、作成期末における邦貨換算レートは以下の通りです。

1 アメリカドル=106.24円	1 メキシコペソ=5.66円	100 コロンビアペソ=3.72円	1 トルコリラ=27.91円
1 ロシアルーブル=1.88円	1 インドルピー=1.65円		

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況

項 目	第4期末	第5期末
	2017年12月6日現在	2018年3月6日現在
	円	円
(A) 資産	3,765,932,385	2,897,030,180
コール・ローン等	139,580,620	109,208,728
新興国通貨建て世界銀行債券マザーファンド(評価額)	3,626,351,765	2,787,821,452
(B) 負債	75,964,618	54,938,392
未払収益分配金	51,151,644	41,294,723
未払解約金	10,635,690	2,414,138
未払信託報酬	14,132,669	11,194,173
未払利息	197	184
その他未払費用	44,418	35,174
(C) 純資産総額(A-B)	3,689,967,767	2,842,091,788
元本	3,410,109,613	2,752,981,565
次期繰越損益金	279,858,154	89,110,223
(D) 受益権総口数	3,410,109,613口	2,752,981,565口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,821円	10,324円

## ○損益の状況

項 目	第4期	第5期
	2017年9月7日～ 2017年12月6日	2017年12月7日～ 2018年3月6日
	円	円
(A) 配当等収益	△ 15,434	△ 10,047
受取利息	475	—
支払利息	△ 15,909	△ 10,047
(B) 有価証券売買損益	49,800,512	△ 84,336,587
売買益	61,684,328	9,004,321
売買損	△ 11,883,816	△ 93,340,908
(C) 信託報酬等	△ 14,177,087	△ 11,229,347
(D) 当期損益金(A+B+C)	35,607,991	△ 95,575,981
(E) 前期繰越損益金	195,424,050	142,823,338
(F) 追加信託差損益金	99,977,757	83,157,589
(配当等相当額)	( 71,916,771)	( 62,944,748)
(売買損益相当額)	( 28,060,986)	( 20,212,841)
(G) 計(D+E+F)	331,009,798	130,404,946
(H) 収益分配金	△ 51,151,644	△ 41,294,723
次期繰越損益金(G+H)	279,858,154	89,110,223
追加信託差損益金	99,977,757	83,157,589
(配当等相当額)	( 73,270,724)	( 63,280,208)
(売買損益相当額)	( 26,707,033)	( 19,877,381)
分配準備積立金	284,981,755	223,461,511
繰越損益金	△105,101,358	△217,508,877

(注) (B) 有価証券売買損益は各期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (C) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) (F) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

## &lt;注記事項&gt;

- ①作成期首(前作成期末)元本額 4,270,672,833円  
 作成期中追加設定元本額 299,652,904円  
 作成期中一部解約元本額 1,817,344,172円  
 また、1口当たり純資産額は、作成期末1.0324円です。

## ②分配金の計算過程

項 目	2017年9月7日～ 2017年12月6日	2017年12月7日～ 2018年3月6日
費用控除後の配当等収益額	51,687,556円	38,483,412円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	—円	—円
収益調整金額	73,270,724円	63,280,208円
分配準備積立金額	284,445,843円	226,272,822円
当ファンドの分配対象収益額	409,404,123円	328,036,442円
1万口当たり収益分配対象額	1,200円	1,191円
1万口当たり分配金額	150円	150円
収益分配金金額	51,151,644円	41,294,723円

- ③「新興国通貨建て世界銀行債券マザーファンド」の信託財産の運用の指図に係る権限の全部または一部を委託するために要する費用として、信託財産に属する同親投資信託の信託財産の純資産総額に対し年10,000分の35以内の率を乗じて得た額を委託者報酬の中から支弁しております。

## ○分配金のお知らせ

	第4期	第5期
1万口当たり分配金（税込み）	150円	150円

◆分配金は各決算日から起算して5営業日までにお支払いを開始しております。

◆分配金を再投資される方のお手取分配金は、各決算日現在の基準価額に基づいて、みなさまの口座に繰り入れて再投資いたしました。

◆課税上の取り扱い

- ・分配金は、分配後の基準価額と個々の受益者の個別元本との差により、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」に分かれます。
- ・分配後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は、全額が普通分配金となります。分配後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、残りの額が普通分配金となります。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時に個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。
- ・個人受益者が支払いを受ける収益分配金のうち普通分配金については配当所得として課税され、原則として、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率で源泉徴収（申告不要）されます。確定申告を行い、総合課税・申告分離課税を選択することもできます。

※法人受益者に対する課税は異なります。

※課税上の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

※税法が改正された場合等には、上記内容が変更になることがあります。

※NISAおよびジュニアNISAをご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。

\*三菱UFJ国際投信では本資料のほかに当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ (<https://www.am.mufg.jp/>) をご覧ください。

### 【お知らせ】

①当社ホームページアドレス変更に伴う記載変更を行うため電子公告のアドレスを変更し、信託約款に所要の変更を行いました。

（変更前（旧）<http://www.am.mufg.jp/> → 変更後（新）<https://www.am.mufg.jp/>）

（2018年1月1日）

②2014年1月1日から、2037年12月31日までの間、普通分配金並びに解約時又は償還時の差益に対し、所得税15%に2.1%の率を乗じた復興特別所得税が付加され、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%（法人受益者は15.315%の源泉徴収が行われます。））の税率が適用されます。

## 新興国通貨建て世界銀行債券マザーファンド

### 《第3期》決算日2018年3月6日

[計算期間：2017年9月7日～2018年3月6日]

「新興国通貨建て世界銀行債券マザーファンド」は、3月6日に第3期の決算を行いました。  
以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第3期の運用状況をご報告申し上げます。

運 用 方 針	主として世界銀行が発行する新興国通貨建て債券に投資を行います。 債券等への投資にあたっては、利回り水準を重視しつつ、各国経済のファンダメンタルズ、通貨のバリュエーション、流動性、分散効果等を総合的に勘案して選定を行います。 投資する債券の残存期間は3年未満とします。 債券等の運用にあたっては、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・インクに運用指図に関する権限を委託します。 債券等の組入比率は高位を維持することを基本とします。 組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
主 要 運 用 対 象	世界銀行が発行する新興国通貨建て債券を主要投資対象とします。
主 な 組 入 制 限	外貨建資産への投資割合に制限を設けません。

### ○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額	期 中 率		債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	純 総 資 産 額
		期 騰 落	中 率			
(設定日)	円		%	%	%	百万円
2016年11月16日	10,000	—	—	—	—	7,400
1期(2017年3月6日)	11,350		13.5	92.7	—	8,535
2期(2017年9月6日)	11,485		1.2	93.6	—	4,565
3期(2018年3月6日)	11,306	△	1.6	88.7	—	2,787

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年	月	日	基 準 価 額	騰 落 率		債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	券 率
				騰	落			
	(期 首)		円		%			%
	2017年	9月6日	11,485		—	93.6		—
		9月末	11,739		2.2	95.7		—
		10月末	11,558		0.6	90.8		—
		11月末	11,586		0.9	93.2		—
		12月末	11,678		1.7	95.8		—
	2018年	1月末	11,607		1.1	89.2		—
		2月末	11,415		△0.6	86.4		—
	(期 末)							
	2018年	3月6日	11,306		△1.6	88.7		—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

## ○運用経過

## ●当期中の基準価額等の推移について

## ◎基準価額の動き

基準価額は期首に比べ1.6%の下落となりました。

基準価額等の推移



## ●投資環境について

## ◎債券市況

- ・当期においては、新興国債券市況を主要新興国の2年債金利で見ると、ロシアなどで金利が低下した一方、トルコなどで金利が上昇しました。
- ・ロシアでは、消費者物価指数の上昇率が低下基調で推移したことや中央銀行が政策金利の引き下げを実施したこと、原油価格が堅調に推移したことなどが影響し、金利は低下しました。
- ・一方トルコでは、エルドアン大統領による中央銀行に対する政治的圧力を背景に、金融政策に対する不透明感が高まったことや、インフレ懸念が高まったことなどが影響し、金利は上昇しました。

## ◎為替市況

- ・当期においては、新興国通貨は対円でまちまちな結果となりました。
- ・トルコリラは、2017年10月に米国とトルコがビザの発給業務を相互に一時的に停止したことや、トルコとクルド人勢力の対立などを背景とした地政学的リスクに対する懸念が高まったことなどが影響し、対円で下落しました。
- ・一方南アフリカランドは、12月に実施された与

党の党首選挙でラマポーザ副大統領が勝利したことなどが影響し、対円で上昇しました。

- 当該投資信託のポートフォリオについて
  - ・世界銀行が発行する新興国通貨建て債券を高位に組み入れる運用を行いました。
  - ・通貨配分や銘柄選択にあたっては、利回り水準を重視しつつ、各国経済のファンダメンタルズ、通貨のバリュエーションなどを総合的に勘案して行いました。
  - ・当期は利回り水準が高く、バリュエーション面で魅力があると考ええるメキシコペソ建て債券やインドルピー建て債券の組入比率を高めとしました。
  
- ・前記の運用を行った結果、保有しているロシアルーブル建て債券が上昇したことや、南アフリカランドが対円で上昇したこと、債券の利子収入を獲得したことなどがプラスに寄与したものの、保有しているトルコリラ建て債券が下落したことや、メキシコペソやトルコリラが対円で下落したことなどがマイナスに影響し、基準価額は下落しました。

## ○今後の運用方針

### ◎運用環境の見通し

- ・新興国のファンダメンタルズが改善傾向にあることや相対的に高い経済成長が見込まれることなどから、新興国債券市場への資金流入が期待できると考えています。また、原油価格の上昇などを背景にインフレ懸念が高まる可能性や、主要先進国の金融政策の動向、地政学的リスクの高まりなどには注意が必要であるものの、これらが新興国債券市場に構造的な影響を与える可能性は低いと見ています。

### ◎今後の運用方針

- ・通貨配分や銘柄選択にあたっては、利回り水準を重視しつつ、各国経済のファンダメンタルズ、通貨のバリュエーション、流動性、分散効果等を総合的に勘案して行う方針です。

## ○1万口当たりの費用明細

(2017年9月7日～2018年3月6日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) そ の 他 費 用	円	%	(a)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
( 保 管 費 用 )	2	0.013	有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
( そ の 他 )	(2)	(0.013)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	(0)	(0.000)	
期中の平均基準価額は、11,597円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## ○売買及び取引の状況

(2017年9月7日～2018年3月6日)

## 公社債

			買 付 額	売 付 額
外 国	メキシコ	特殊債券	千メキシコペソ 11,014	千メキシコペソ 24,689
	ブラジル	特殊債券	千ブラジルレアル 5,936	千ブラジルレアル 5,758 ( 17,385)
	コロンビア	特殊債券	千コロンビアペソ -	千コロンビアペソ 2,475,000
	トルコ	特殊債券	千トルコリラ -	千トルコリラ 4,159
	ロシア	特殊債券	千ロシアルーブル 18,422	千ロシアルーブル 71,746
	インド	特殊債券	千インドルピー 37,977	千インドルピー 173,998
	南アフリカ	特殊債券	千南アフリカランド -	千南アフリカランド 12,490 ( 41,445)

(注) 金額は受渡代金。(経過利子分は含まれておりません。)

(注) ( )内は償還等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

## ○利害関係人との取引状況等

(2017年9月7日～2018年3月6日)

## 利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
為替直物取引	893	—	—	2,636	522	19.8

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱東京UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行です。

## ○組入資産の明細

(2018年3月6日現在)

## 外国公社債

## (A) 外国(外貨建)公社債 種類別開示

区 分	当 期 末							
	額面金額	評 価 額		組入比率	うちBB格以下 組入比率	残存期間別組入比率		
		外貨建金額	邦貨換算金額			5年以上	2年以上	2年未満
メキシコ	千メキシコペソ 112,323	千メキシコペソ 110,410	千円 624,925	% 22.4	% —	% —	% 5.3	% 17.1
コロンビア	千コロンビアペソ 11,450,000	千コロンビアペソ 11,539,828	429,281	15.4	—	—	—	15.4
トルコ	千トルコリラ 9,750	千トルコリラ 9,576	267,283	9.6	—	—	0.3	9.3
ロシア	千ロシアルーブル 287,300	千ロシアルーブル 299,572	563,196	20.2	—	—	—	20.2
インド	千インドルピー 358,900	千インドルピー 356,490	588,209	21.1	—	—	5.6	15.5
合 計	—	—	2,472,897	88.7	—	—	11.2	77.5

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(B)外国(外貨建)公社債 銘柄別開示

銘柄	利 率	額面金額	当 期 末		償還年月日
			評 価 額		
			外貨建金額	邦貨換算金額	
メキシコ	%	千メキシコペソ	千メキシコペソ	千円	
特殊債券	4 IBRD 180816	55,373	54,531	308,647	2018/8/16
	5.25 IBRD 191017	30,950	29,808	168,714	2019/10/17
	7.5 IBRD 200305	26,000	26,071	147,563	2020/3/5
小 計				624,925	
コロンビア		千コロンビアペソ	千コロンビアペソ		
特殊債券	4.25 IBRD(GL) 190620	9,200,000	9,167,248	341,021	2019/6/20
	8 IBRD (GL) 200302	2,250,000	2,372,580	88,259	2020/3/2
小 計				429,281	
トルコ		千トルコリラ	千トルコリラ		
特殊債券	10 IBRD 200316	350	332	9,267	2020/3/16
	9.54 IBRD 180529	9,400	9,244	258,015	2018/5/29
小 計				267,283	
ロシア		千ロシアルーブル	千ロシアルーブル		
特殊債券	10 IBRD 190916	43,000	45,822	86,145	2019/9/16
	10.3 IBRD (GL) 190305	192,500	201,476	378,775	2019/3/5
	8 IBRD (GL) 180822	51,800	52,274	98,276	2018/8/22
小 計				563,196	
インド		千インドルピー	千インドルピー		
特殊債券	5.75 IBRD (GL) 191028	48,450	47,956	79,127	2019/10/28
	5.75 IBRD (GL) 200508	95,150	93,966	155,044	2020/5/8
	6.375 IBRD (GL) 180807	215,300	214,568	354,037	2018/8/7
小 計				588,209	
合 計				2,472,897	

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

○投資信託財産の構成

(2018年3月6日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公社債	千円 2,472,897	% 88.7
コール・ローン等、その他	314,912	11.3
投資信託財産総額	2,787,809	100.0

(注) 期末における外貨建純資産(2,765,217千円)の投資信託財産総額(2,787,809千円)に対する比率は99.2%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは以下の通りです。

1 アメリカドル=106.24円	1 メキシコペソ=5.66円	100コロンビアペソ=3.72円	1 トルコリラ=27.91円
1 ロシアルーブル=1.88円	1 インドルピー=1.65円		

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2018年3月6日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	2,787,809,390
コール・ローン等	262,748,308
公社債(評価額)	2,472,897,114
未収利息	46,170,749
前払費用	5,993,219
(B) 負債	38
未払利息	38
(C) 純資産総額(A-B)	2,787,809,352
元本	2,465,789,362
次期繰越損益金	322,019,990
(D) 受益権総口数	2,465,789,362口
1万口当たり基準価額(C/D)	11,306円

<注記事項>

- ①期首元本額 3,975,101,588円  
 期中追加設定元本額 0円  
 期中一部解約元本額 1,509,312,226円  
 また、1口当たり純資産額は、期末1.1306円です。

- ②期末における元本の内訳(当親投資信託を投資対象とする投資信託ごとの元本額)  
 新興国通貨建て世界銀行債券オープン 2,465,789,362円

【お知らせ】

当社ホームページアドレス変更に伴う記載変更を行うため電子公告のアドレスを変更し、信託約款に所要の変更を行いました。  
 (変更前(旧) <http://www.am.mufg.jp/> → 変更後(新) <https://www.am.mufg.jp/>)  
 (2018年1月1日)

○損益の状況 (2017年9月7日～2018年3月6日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	120,360,537
受取利息	120,367,082
支払利息	△ 6,545
(B) 有価証券売買損益	△149,040,102
売買益	30,861,464
売買損	△179,901,566
(C) 保管費用等	△ 485,574
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 29,165,139
(E) 前期繰越損益金	590,132,903
(F) 解約差損益金	△238,947,774
(G) 計(D+E+F)	322,019,990
次期繰越損益金(G)	322,019,990

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。  
 (注) (F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。